

# 日本語動詞「はたく」の意味・用法

## — 「現象素」による解釈 —

中道 知子 (大東文化大学外国語学部)

## Meaning of Japanese verb “hataku”

Tomoko NAKAMICHI

### 要旨

「はたく」の多義的意味はこれまで十分に分析されていなかった。その結果として、現行国語辞典には現実の用法が十分には捉えられていない。たとえば、下記実例にある「はたく」の語義は、国語辞典の語釈では説明されていない。「お紺は頬に手をあてた。その指が、おしろいでもはたくみたいに震えている。」(宮部みゆき『おまえさん』講談社文庫 2011 年)

「はたく」は少なくとも 3 つの多義的意味を持ち、その多義的意味は、国広哲弥 (1994, 1997) の「現象素」による認知的多義として解釈することが最も適切である。現象素は、〈付着〉、〈除去〉、〈打撃〉という 3 つの要素として認識され、一定の条件の下で文脈の変容を経て多義的意味として実現する。

### 1 問題提起—本稿でとりあげる「はたく」の意味・用法

「はたく」という動詞の意味は、現行の国語辞典によると次の 2 つの意味が主な語義として解説されている。①払いのける。「ちりを—」②たたく。打つ。「相手のほおを—」(現行国語辞典 9 種の各最新版の調査結果による。詳細は本稿第 2 章にて後述する)。

しかし、「はたく」の実際の用例を見ると、これら現行国語辞典の語釈には該当しない次のような使用例がある。(下線は本稿筆者による)

(1) お紺は頬に手をあてた。その指が、おしろいでもはたくみたいに震えている。

(宮部みゆき『おまえさん』講談社文庫 2011 年)

この用例 (1) の「はたく」は〈つける = 付着〉という語義 (以後、〈付着〉と表記する) を持つ

と考えられる<sup>1</sup>。ところが、現行国語辞典を見ると、この用例をじゅうぶんに説明できる語釈を示している辞書はない。この用例(1)のような「はたく」の意味・用法について、本稿では、まず第一に、このような意味・用法が数多く存在することを指摘する。次に、現行国語辞典が記載している〈払いのける=除去〉(以後、〈除去〉と表記する)という語義と、本稿で指摘する〈付着〉という語義の関係について分析する。そして、「はたく」の語義の全体像を解釈するためには、国広哲弥(1994)の「現象素」が有効であることを論ずる。

「はたく」の語義分析については、本稿筆者の指導の下に書かれた卒業論文である佐藤那奈(2019 予定)「「はたく」について」があり、本稿ではその調査結果を引用している。

## 2 現行国語辞書における「はたく」の語釈の姿

佐藤(2019 予定)では、現行国語辞典9種の語釈を比較している。下の表1は、佐藤の表をもとにしている<sup>2</sup>。

表1 現行国語辞典における「はたく」の語釈 (佐藤(2019 予定)を参考にした)

単語	意味
明鏡国語辞典 第二版	①平たいもので打つ。たたく。「平手で頬を一」 ②たたいて払い除く。「はたきでほこりを一」 ③財布を逆さにして中の金をすっかり出す。出し尽くす。「財布(の底)を一(=たたく)」 ④相撲で、相手の首や肩を上からたたいて前に倒す。はたき込みの技をかける。
岩波国語辞典 第七版新版	①払いのける。「ちりを一」 ②たたく。打つ。「相手のほおを一」 ③相撲で払いのけるようにして相手を前のめりに倒す。 ④ある限りの金銭を使い果たす。「財布の底を一」「身代を一」
大辞林 第三版	①たたく。うつ。「頬を一・く」 ②たたいて払う。払って除く。「塵を一・く」「煙管を一・く／書記官 <small>眉山</small> 」 ③財布などを逆さにして、中の金を全部出す。財産を使い尽くす。「有り金を一・く」「何やかやで全く財布の底を一・き／怪談牡丹灯籠 <small>四朝</small> 」 ④相撲で、相手の首や肩を上からたたいて前に落とす。 ⑤搗いて粉にする。「枯れたる櫛を抹香に一・かせて／浮・新永代蔵」 ⑥失敗する。損失を出す。「一・きさうな芝居なり／黄・艶気樺焼」
新選国語辞典 第九版	①たたく。打つ。「頭を一」 ②つよく打って、はらいのぞく。「ほこりを一」 ③すっかり出す。使いつくす。「貯金を一」 ④すもうで、相手の肩などをたたいて、前にのめらせる。

<p>新明解国語辞典 第七版</p>	<p>①〔そこに在る物を全部払いのけたりなどするために〕その物の表面を全面にわたってまんべん無く打つ（ように払う）。「布団（畳）を一／はたきで一」 ②中に入っているものを全部外に出す。「財布を一／なけなしのお金（有り金）一〔＝全部出す〕」</p>
<p>三省堂国語辞典 第七版</p>	<p>①はらいのける。「ちりを一」 ②〈平手で／平たいもので〉たたく。「はたき落とす」 ③財産・お金を全部使う。「さいふの底を一・あり金を一」 ④〔すもうで〕相手の首や肩（カタ）の上からたたいて前にたおす。</p>
<p>広辞苑 第七版</p>	<p>①払いのける。はらう。「ほこりを・一く」 ②たたく。うつ。また相撲で、はたきこみをする。「顔を・一く」 ③（「砕く」とも書く）たたいて細かくする。搗っていく。永代蔵「骨を…一・かせ、又油を取りけるに」 ④財産などを使い尽くす。「身代を・一く」 ⑤（自動詞的に）失敗する。しくじる。江戸生艶気樺焼「一・きさうな芝居なり」</p>
<p>日本国語大辞典 第二版</p>	<p>㊦ ①搗（つ）く。砕く。砕いて粉末にする。粉にする。*浮世草子・日本新永代蔵〔1713〕二・五「扱其枯たる櫛を、抹香にはたかせて」 ②うち払う。払いのける。ごみやほこりをたたいて落とす。*多情多恨〔1896〕〈尾崎紅葉〉前・七・三「故とらしく煙管を撃（ハタ）く音がする」 ③たたく。平たいもので打つ。なぐる。*星座〔1922〕〈有島武郎〉「左の肩を平手ではたくものがゐた」 ④すっかりなくしてしまう。財産、持ち金、知恵などを使い尽くす。払い尽くす。*東京の三十年〔1917〕〈田山花袋〉読書の声「なけなしの財布の銭をはたいて、天ぶら蕎麦を二つ奢って呉れた」 ⑤身に受ける。蒙る。*踊之著慕駒連〔1854～61頃〕「衆人の中にて強恥はたくよ、大恥はたくよ」 ⑥しくじる。失敗する。やりそこなう。損する。また、不評を蒙る。*滑稽本・続々膝栗毛〔1831～36〕三・下「あっちに何も角も蔵衣裳があるといふくらみだから、はたいちゃアおしまひだぜ」 ⑦値切る。値段を安くさせる。まけさせる。 ⑧口に出す。吐く。ほざく。ぬかす。*洒落本・まわし枕〔1789〕「いいかげんに口をはたきやアがれ」 ㊧（手や足を）のばしたりひろげたりする。</p>

この表から見る限り、現行の国語辞典には、本稿第1章で取り上げた用例（1）に該当する〈付着〉という意味は載っていない。

また、柴田武他（1976）には、「ハタク」という行為の動機は〈（粉状の）細かいものを払って出す（のける）ため〉であると書かれており、「はたく」には〈除去〉という意味のみが認められていて〈付着〉の意味には言及がない。

### 3 〈付着〉用法は一般的である

#### 3-1 用例

しかしながら、現行国語辞典に載っておらず先行研究の分析にもとりあげられていない〈付着〉という意味の「つける」の使用は、非常に一般的にみられる。佐藤 (2019 予定) は、BCCWJ (国立国語研究所「KOTONOHA 現代日本語書き言葉均衡コーパス 少納言」BCCWJ: Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese) を調べて、下記のような使用例を収集している。引用するにはやや数が多いが、当該意味の用法が一般的であることを示すためにあえて掲げる。

- (2) 「まあ、ほうや、」と、髪に粉をはたいた王女様はいいました。「あなた、ほんとにわけをご存じないの？なぜかというとね、(ウィーダ (2003) 『フランダーズの犬』野坂悦子訳、岩波書店.)
- (3) 上にボレロをはおれば外出着になる。日焼け防止のためのファンデーションを塗り、粉をはたいて、口紅を引いた。(新津きよみ (1999) 『血を吸う夫』角川春樹事務所.)
- (4) たとえ危険を冒すとしてもだ。麻也子は突然化粧水をはたきつけていた手を止める。そして受話器をわしづかみにした。(林真理子 (1996) 『不機嫌な果実』文芸春秋.)
- (5) (前略) こめかみに着ける。(これで骨格をハッキリさせます) その後次々のシャネルのお粉をはたく。次に FASHIO のフェイスカラーのテラコッタでシェーディング。(「Yahoo! ブログ」(2008) 〈<http://blogs.yahoo.co.jp>〉2017 年 12 月 14 日閲覧.)
- (6) 星を旅してきたと主張しています。ええ、宇宙船なしで。それから打ち粉みたいなものをはたいた薄汚い手紙をよこした男もいましたっけ。(エドナ・ブキャナン (1996) 『死の裁き』鴻巣友季子訳、扶桑社.)
- (7) ふたをして器に盛り、上からキャラメルクリームをかける。粉をはたいて準備した型は、使う直前まで冷蔵庫に入れておきます。(信太康代 (2002) 『綺麗な女のかわいいお菓子』講談社.)
- (8) 行ってしまった。やれやれ…。結構大変なもんだな、と中里は、あちこちに白い粉をはたいたりしているのを、ほんやりと眺めていた。指紋を採っているのだ。(赤川次郎 (1989) 『三毛猫ホームズのプリマドンナ』光文社.)
- (9) 全体にクリームタイプのファンデを塗って、パウダーをはたく。その後カバーしたいところや頬を中心に薄くパウダーファンデを塗る。(「Yahoo! 知恵袋」〈<http://m.chiebukuro.yahoo.co.jp>〉2017 年 12 月 14 日閲覧.)
- (10) 病院にいかないと治りませんか？あせもにはシッカロール。ベビーパウダー (天花粉) をはたくのがいいですよ。ちょっと白くなるのが難点ですが。(「Yahoo! 知恵袋」〈<http://m.chiebukuro.yahoo.co.jp>〉2017 年 12 月 14 日閲覧.)
- (11) (前略) ケーキクーラーにのせてさましておく。型に溶かしバターを塗り、茶こしでたっ

ぷりと粉をはたいたら、全体にまんべんなく行き渡るように型をゆすります。(信太康代(2002)『綺麗な女のかわいいお菓子』講談社。)

- (12) マトファーが好きなので、マトファーのブリキ型を購入。型にバターを塗って、強力粉をはたく作業も、思ったより面倒でもないし。作るなら、綺麗に焼き色つけたいですね。(「Yahoo! ブログ」(2008)〈<http://blogs.yahoo.co.jp>〉2017年12月14日閲覧。)
- (13) そのご婦人は頭からつまさきまでピンクと金色と白にぬられ、髪には粉をはたき、ハイヒールをはいていました。それがすべて、とても洗練され美しいマイセン陶器で(ウィーダ(2003)『フランダーズの犬』野坂悦子訳、岩波書店。)
- (14) 野菜を千切りにして酢・醤油・砂糖をかけレンジで40秒チン鰯を3枚におろし小麦粉をはたいて揚げ焼きにするそのままたれと野菜の入ったバットにいれ漬ける(「Yahoo! ブログ」(2008)〈<http://blogs.yahoo.co.jp>〉2017年12月14日閲覧。)
- (15) ところや頬を中心に薄くパウダーファンデを塗る。化粧直しは、脂をとって、パウダーをはたいてから同じようにファンデをぬる。両方できるファンではないですよ。(「Yahoo! 知恵袋」〈<http://m.chiebukuro.yahoo.co.jp>〉2017年12月14日閲覧。)
- (16) 小麦粉をはたいてサーモンを焼いて塩こしょうするだけ。下に蓮根がひそんでいます。(「Yahoo! ブログ」(2008)〈<http://blogs.yahoo.co.jp>〉2017年12月14日閲覧。)
- (17) あと、リキッドはカバー力がある分油分もあるので、粉をはたく前にティッシュで余分な油を抑えた方がいいと思います。(「Yahoo! 知恵袋」〈<http://m.chiebukuro.yahoo.co.jp>〉2017年12月14日閲覧。)

### 3-2 インフォーマントアンケートの結果

佐藤(2019 予定)は、インフォーマントアンケートを実施して、〈付着〉用法が一般的であることを示した。

佐藤(2019 予定)のインフォーマント調査の概要は以下のとおりである。

実施期間：2017年7月～2017年12月の期間において、

被験者：20代/20名、30代/9名、40代/12名、50代/10名、60代/10名の計61名



調査方法：インフォーマントに、化粧をしている女性のイラスト(左図)を見せて、そのイラストが表す動作に対し「はたく」を使用するか、ほかのことばを使用するかを問うアンケート調査。

この調査の結果として、佐藤(2019 予定)は、粉類を〈付着〉させる意味で全年代61人中52人が「はたく」を「使用する」、「聞いたことがある」と回答していることを明らかにして、〈つける〉

という意味での使用が認知されているということがわかると述べている。

#### 4 「はたく」の意味の相反性—〈付着〉と〈除去〉—

第3章において見た「はたく」〈付着〉の意味の用例は、「おしろい、薬品などの粉類」を対象語としてとるものがほとんどである。

ここで、同じ粉類を対象語としてとる用法でも、その意味が〈付着〉ではなく〈除去〉である用例を、佐藤(2019 予定)から引用する。(〈除去〉を意味する「はたく」用例(BCCWJ))

- (18) ケーキ用マーガリンをはけで薄くぬります。4. さごやし粉をふりかけたあと、よぶんな粉をはたきます。小麦粉OK●(渡邊香代子(2005)『タマゴも牛乳もつかわずにこんなに美味しいお菓子ができた!』ソニー・マガジズ.)
- (19) フライの衣って、卵とか、小麦粉ってどういう順番でしたっけ?小麦粉をつけて余分な粉をはたき少し牛乳を入れたたまごをつけてパン粉です。(「Yahoo!知恵袋」〈<http://m.chiebukuro.yahoo.co.jp>〉2017年12月14日閲覧。)
- (20) 豆腐を3センチ角の、やっこに切り、1個ずつ小麦粉をたっぷり、まぶし、余分な粉をはたく、170度の油で豆腐をフライ返しに載せて油の中に入れ、(「Yahoo!知恵袋」〈<http://m.chiebukuro.yahoo.co.jp>〉2017年12月14日閲覧。)
- (21) バター、強力粉 各適量準備+ 型に溶かしバターを塗り、強力粉をふる。余分な粉をはたいて落としてから冷蔵庫で冷やしておく(信太康代(2002)『綺麗な女のかわいいお菓子』講談社.)

(18)~(21)を見てわかるように、〈除去〉の意味の「はたく」は「よぶんな/余分な」という表現と共起している。

〈付着〉と〈除去〉は、反対方向の意味である。そのような反対方向の意味は、粉がよぶんなものであるか必要なものであるかという文脈<sup>3</sup>の違いによって最終的に実現されていると言える。

#### 5 「はたく」の〈打撃〉という意味

「はたく」は現行国語辞典では「たたく」の類義としての語釈が書かれている。柴田武他(1976)においても、「ナグル・ブツ・タタク・ハタク・ウツ」については、「この五つの動詞に共通の意味は、〈打撃を加える〉ということである」と書かれている。

しかし、佐藤(2019 予定) BCCWJの調査において、「はたく」の用例全117件のうちで、〈除去〉の意味31件、〈付着〉の意味16件、〈打撃〉の意味14件(「大金をはたく」のような慣用表現と相撲の技としての意味の56件を除く)であった。



また佐藤（2019 予定）のインフォーマント調査では、大人が子どもに手をあげるイラスト（左図）を見せて、その動作を表わす動詞として「はたく」を用いるか「たたく」を用いるか問うたところ、各年代とも「はたく」よりも「たたく」を使用する割合がかなり高く、全年代を合計すると 61 人中 52 人（85%）が「たたく」を使用するという結果となった。

すなわち、佐藤の BCCWJ 調査とインフォーマント調査を見ると、「はたく」が持つ〈打撃〉の意味は、この語の第一義的な意味とは言えないと判断できる<sup>4</sup>。

## 6 「はたく」の多義的語義の総合的解釈—現象素による

### 6-1 「現象素」とはなにか

「現象素」とは、国広哲弥（1994）「認知的多義論—現象素の提唱—」（『言語研究』第 106 号 日本言語学会）によって提唱された論である。その後、国広（1997）で次のように規定されている。

語の用法と結びついた外界の現象・出来事・物・動作など、感覚で捉えることのできるもので、言語外に人間の認知の対象として認められるものである（p.176）

国広（1997）は、「現象素」の考え方によっていくつかの多義動詞を分析している。そのなかで、動詞「とる」の多義を、現象素の認知のしかたの違いが主な原因で生じる「認知的多義」と位置づけている。「とる」の現象素は次のように図示されている（p.226）。



この図は、「とる」というのは、どこかに置いてある物を手でつかんでそこから引き離す、という動作であることを示している。その現象素を認知的な 3 つの要素に分解すると、〈把握〉、〈獲得〉、〈離脱または除去〉と言える。

動詞「とる」が、例文「大皿のおかずを小皿にとる」では〈獲得〉という意味になり、例文「服についたごみをとる」においては〈離脱または除去〉という語義を持つのは、「とる」という動作の動き（＝現象素）が様々な文脈において実現することによって、文レベルの意味が生じるという解釈である。ヲ格目的語の位置に立つ名詞が、〈必要なもの〉であれば「とる」は〈獲得〉の意味として立ち現われ、〈必要でないもの〉であれば〈離脱または除去〉の意味として実現される。

〈獲得〉と〈離脱または除去〉は、むしろ反対の性質を持っているが、従来から一貫して「とる」の多義として扱われてきた。このことは、「はたく」が〈付着〉と〈除去〉という正反対と思われる多義の意味を持つという解釈の妥当性につながる。

## 6-2 「はたく」の多義の分析

「はたく」の現象素を言葉で表現するなら、次のようになる。

〔動作主が、なにかの面に対して、その面に垂直の方向に手を細かく動かして接触する〕

実際の文脈において文の意味が実現する際には、次のような傾向がある。

1. 「顔におしろいをはたく／ケーキ型に小麦粉をはたく」のように、〔〈面〉ニ、〈必要な粉類〉ヲ、はたく〕という文型において〈付着〉の意味になることが多い。
2. 「服の埃をはたく」のように、〔〈不要な粉類〉ヲ、はたく〕という文型であるが〔〈面〉ニ〕という要素が含まれない場合は、〈除去〉の意味になることが多い。
3. 「頬をはたく」のように、〔〈面〉ヲ、はたく〕という文型の場合は、〈打撃〉の意味になることがある。

上記の3つの文脈による変容を図式的に表すと以下のようなになる。用いた記号は、+はその意味要素の存在を意味し、-はその意味要素の不存在を意味する。

1. [+ 〈面〉ニ、+ 〈必要な粉類〉ヲ、はたく] という文型。意味は〈付着〉  
例文：「肌にベビーパウダーをはたく」
2. [- 〈面〉ニ、+ 〈不要な粉類〉ヲ、はたく] という文型。意味は〈除去〉  
例文：「ズボンの尻についた砂をはたく」
3. [+ 〈面〉ヲ、はたく] という文型。意味は〈打撃〉  
例文：「横っ面をはたく」

現実の手の動き方は、〈付着〉と〈除去〉においてはそれぞれの目的に合わせてやや異なるものであるし、〈打撃〉の場合は手を動かして面に接触する動作そのものが焦点化される。

## 7 むすび

「はたく」の多義の意味はこれまで十分に分析されていなかった。その結果として、現行国語辞典では現実の用法が捉えられていない。

「はたく」の多義の意味は、「現象素」による認知的多義として解釈することが最も適切である。現象素は、〈付着〉、〈除去〉、〈打撃〉という3つの要素として認識され、多義の意味として実現する。

今後は、稿を改めて、「はたく」の現象素（ないしは意義素<sup>5)</sup>）が文脈の変容を受ける様相を具体的に分析したいと思う<sup>6)</sup>。



.....

### 参考文献

- 国広哲弥 (1994) 「認知的多義論—現象素の提唱—」『言語研究』第 106 号 日本言語学会  
国広哲弥 (1997) 『理想の国語辞典』大修館書店  
佐藤那奈 (2019 予定) 「「はたく」について」『外国語学会誌』48 号 大東文化大学外国語学会  
柴田武他 (1976) 「ナグル・ブツ・タタク・ハタク・ウツ」『ことばの意味 辞書に書いてないこと』  
平凡社  
山田 進 (2017) 『意味の探求』くろしお出版

### 辞書

- 明鏡国語辞典 第二版  
岩波国語辞典 第七版新版  
大辞林 第三版  
新選国語辞典 第九版  
新明解国語辞典 第七版  
三省堂国語辞典第七版  
広辞苑 第七版  
日本国語大辞典第二版

- 
- <sup>1</sup> 「 」は語形を表示し、〈 〉は語義を表示する。
- <sup>2</sup> 佐藤 (2019 予定) には国語辞典の用例が引用されていないが、それを補っている。『日本国語大辞典』の用例は、一部のみを引用した。『広辞苑』は佐藤の執筆完了後に第七版が発行されたのでそれを引用した。『角川国語中辞典』は除いた。
- <sup>3</sup> ここで言う文脈とは、言語的なものと場面的なもの両方を含む。
- <sup>4</sup> しかし、次のような採取例を考えると、〈打撃〉義の「はたく」には方言差があるのかもしれない。  
「腰入れて体で (太鼓を) はたくんだ」50 歳代若衆の発話 2018.9.8TOKYO MX1  
(テレビ番組)『日本の祭り傑作選 栃木県 彫刻屋台に命が宿る日～鹿沼秋まつり』
- <sup>5</sup> 山田 (2017) では「私見では意義素と現象素はともに広義の意義素とっていいと思う。意義素概念はそれだけの融通性をもった概念なのである」と述べている。本稿ではそれに従いたい。
- <sup>6</sup> 山田 (2017) では、意義素が文脈の変容をする諸相について考察を積み重ねる必要があると述べている (296)。